

県道小山田谷山線・小山田地区開通式

外環状道路として期待

県道小山田谷山線(小山田地区)の開通式が26日、鹿児島市の現地で開かれ、関係者約120人が出席して開通を祝った。



開通を祝いテープカットする関係者
＝鹿児島市の現地で

同日は、神事が執り行われた後、西村佐多男同地区協議会長が「地権者の理解や協力のもと、多くのの方々のご尽力で長年の悲願であった道路が完成し感謝します。これから安心して通行できると思う」と挨拶。次いで、加藤憲一県土木部長も「同路線は鹿児島市と鹿児島空港を結ぶ外環状道路として、また、災害時の代替道路として重点的に整備を進めてきた。多くのの方々にご利用していただきたい」と述べた。

引き続き、開通式では、良き思い出の一環として小山田小学校の生徒によるタイムカプセル埋設が行い、関係者ら10人によるテープカット、県議や小学生らのご玉開きの後、通り初めで式を終えた。

県建具組合連合会種子島支部 保育園に木造手すり等



園児らと写真に納まる組合員＝南種子町の同保育園で

活動を行った。組合員の手によって作られた木造の手すりや物干し台に園児らは笑顔で喜んだ。このボランティアは、毎年4月10日の「建具の日」に合わせて行われるもの。今年も同町のあおぞら保育園(園児数約130人)で実施し、杉材による物干し台(約10本のほか、教室入り口には園児の出入りに配慮して手すりも取り付けた。駆け寄ってくる園児らに、有島支部長は「喜んでもらって本当に良かった。子どもたちが毎日楽しく、安心して過ごせるよう願っています」と話した。

「建具の日」は、全国建具組合連合会が昭和60年、4月10日を「良い戸」と語呂合わせして定めたもの。住宅新築や増築等が盛んで建具にも関係が深い。同日は、日頃からお世話になっている得先へ感謝を込め、開催されるもので今年で6回目。会場では、松下電工(株)、松下電器産業(株)、三菱電機(株)、ダイキン空調

大感謝祭びっくり市 最新家電がずらり



かこしま電工(株)が主催の「第6回大感謝祭びっくり市」が23、24日、鹿児島市宇宿2丁目のスペース22で開かれ、家族連れら約3300人が訪れ終日にぎわった。同イベントは、日頃からお世話になっている得先へ感謝を込め、開催されるもので今年で6回目。会場では、松下電工(株)、松下電器産業(株)、三菱電機(株)、ダイキン空調

社員家族ら約190人満喫

市坪建装(市坪孝志社長)は24日、日吉町の日吉海岸で毎年恒例の地引網大会を開き、社員や協力会社などから約190人が参加、収穫した魚

00mの沖に仕掛けられた網を子供らも一緒に引いてあげられ、約10分後に引き上げられた網の中は、大漁で子ども達も大喜びだった。

このあと開かれた昼食会では、市坪社長が主催者を代表して挨拶。次いで、牧迫慎一氏(牧迫塗料(株))が乾杯の発声を行い、収穫した魚の刺身やバーベキューなど食

むなどそれぞれが歓談した。また、サッカーのミニゲームや子供たちの輪投げ大会なども行われ、和気あいあいとした楽しい雰囲気の中で一日を過ごした。なお、昼食会終了後は、後片付け終了後に記念写真に納まる参加者一日吉町

桜島海づり公園オープン

親子でふれあう場に

鹿児島市

鹿児島市桜島横山町の「桜島海づり公園」がこ

テープカットを行う



典が行われ、森博幸鹿児島市長ら関係者がテープカットを行い、オープン

親子で触れ合ふ憩いの場として有効に活用してほしい」と式辞を述べた。

事業経過報告の後、施工に携わった(株)新日本技術コンサルタント、新日本製鐵(株)、(株)森山(組)、(株)竹元工務店、(株)竹元住設工業などに森市長からそれぞれに感謝状が贈られた。

同公園は昭和61年に完成した与次郎2丁目の「鹿児島海づり公園」に次ぐ2番目の釣り施設で、釣り人口の多い本県にとっ

当日は現地で、桑畑智志互助会長が作業内容と

「ごみなどを拾い集める参加者」大崎町の現

単位でのボランティア活動は以前より行っていたが、社員全員の取り組みは初めて。わが社のISO品質方針にも奉仕の精神が唱われており、今後とも機会があるごとに地域社会の一員として積極的に取り組んでいきたい。

後片付け終了後に記念写真に納まる参加者一日吉町

お、昼食会終了後は、後片付け終了後に記念写真に納まる参加者一日吉町

ごみ軽トラック1台分



1台分にもなった。参加した社員は「現場動は以前より行っていたが、社員全員の取り組みは初めて。わが社のISO品質方針にも奉仕の精神が唱われており、今後とも機会があるごとに地域社会の一員として積極的に取り組んでいきたい。」

当日は現地で、桑畑智志互助会長が作業内容と

薩摩金山蔵プレオープン

本格焼酎の発信基地へ

濱田酒造

濱田酒造(濱田雄一)串木野市下名の旧串木野郎社長、串木野市)は、ゴールドパーク跡地に本



蔵の完成を祝う出席者
＝串木野市の現地で

格焼酎をテーマに薩摩文化の発信基地と地域振興などを目的とする施設「薩摩金山蔵」の建設を進めていたが、19日に串木野市の現地でプレオープンし、関係者やマスコミ等に施設見学会などが行われた。なお、グランドオーブンは23日を予定している。

式典では、濱田社長が「ここから日本酒本格焼酎の存在を世界に知らしめ、本格焼酎を真の国酒へ、そして世界に冠たる酒へ」を目標に情報発信していきたい」と挨拶した後、濱田社長、原田耕蔵県商工観光労働部

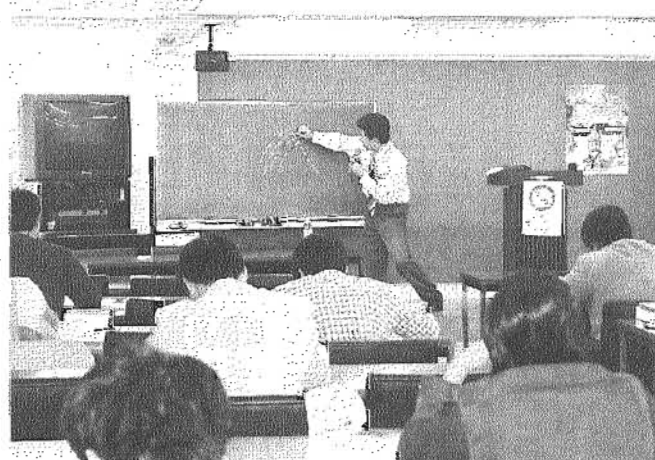
長、田畑誠一串木野市長、大久保幸夫市長らが玉ぐしを捧げ、無事故の完成と今後の発展を祈った。

薩摩金山蔵は、敷地面積6万5000㎡にW造平屋建て488・45㎡の施設を新築、薩摩由来の伝統工芸品や食品の特産品販売店「蔵乃仲見世」、金山坑道内から豊富に湧出する地下水を活用した温浴施設「杜氏乃湯」なども備えている。地下施設としては焼酎製造・貯蔵や薩摩開運神社・観音像など。また、施設内の中庭に川が流れ一部に螢の成育するホタルビオトープを設置している。

建築施工技士受験準備講習会

21日 3日間の講座に挑む

地域開発研究所



過去の試験傾向分析など行った講習会
＝鹿児島市の県建築会館で

地域開発研究所主催の「受験準備講習会」が19日、鹿児島市の県建築会館で開かれ、本県や宮崎県などから建築施工管理技士を目指す男女21人が3日間の講座に挑んだ。

今回の日程は、17年度1級(学科)建築施工管理技術検定試験合格に向けたプログラムで、第1日(建築一般I・II)、第2日(安全管理・法規I・II)、第3日(施工計画・品質管理・工程管理)の短期集中型の講座で、過去の試験傾向分析に基づいた出題頻度の高い項目と、それに関連する過去の問題を中心に講義を行う。

県道小山谷山線

シバザクラが満開

26日、開通式

26日に開通式がある県道小山谷山線(小山谷地区)の国道3号交差点付近で「シバザクラ」の花が満開だ。提案から施工指導を行った(株)ナカムラの担当者は「中央分離帯に約8000本の植栽をして1年近く経つが、多年草で手を掛けずに維持管理ができ、桜の開花と同時に鮮やかな濃いピンクの花が満開になり、開通後はドライバーの目を惹きつけてくれる」と話す。

桜の花びらにも似た「シバザクラ」が花を添えそうだ。同社では、同路線の3号側の中央分離帯に約200m(昨年5月頃植栽)、終点側の中央分離帯にも1000本弱の花を昨年12月に植栽。防草シートだけでは殺風景であることから植栽を絡めた提案をこれまで行い、鹿児島中央駅前や県川薩農業改良普及センターなどでも試験施工を行い、メンテナンスが容易な点なども好評。

今後、春には鮮やかなピンクの花のじゅうたんがドライバーの目を惹きつけてくれる。

合併再編と建設業の役割

一緒に良いいものをつくる

地域にとってこれからの建設業は? 建設業に求められるのは一体、何なのか? 私どもは、正直なところ急激な変化に戸惑っている。建設業は、発注者がセッティングした工事を受

注し、求められる品質・安全を確保しながら、工期内に納めれば、それでよかった。いわば発注者の顔ばかりを見て仕事をしていた。しかし、公共事業の進め方が大きく変わり、真の顧客は市民であり、地域住民であることに私も気づいた。地域に本当に必要なもの、住民に信頼されるもの、住民に信頼されるもの、共事業は一部の建設業のためにある、という声も

真の顧客は地域住民

合併後の建友会の在り方は? 旧3町には歴史のある町内建友会がある。合併後も従来通りの方法で運営すべきで、スクランブルは避けるべきだ。これからは、今まで以上に公共事業に参加する企業としての責任と品質・安全確保は問われるわけで、その共通の目標に向かって県建設業協会宮之城支部が中心となって非会員企業を含め周知を図って行きたい。幸い、当協会では以前から道開、電気水道工事等の非会員企業にも等しく研修会や各種講習会受講の門戸を広く開いているので、その機

春の祭典スプリングフェア

初日来場者1000人突破

鹿児島クボタ



トラクターに試乗する来場者
＝溝辺町の鹿児島クボタで

同時に来客が詰め掛け、午前中に早くも1000人を突破した。フェアは24日まで。

馬力を誇る「ニューグラントラム」など新製品のほか、田植機や合併処理浄化槽、コンテナハウスなどが勢ぞろい。来場者は品定めに熱中していた。中でも会場の一隅に設けられたトラクター試乗は大人気で、来場者は順番に乗り込んで運転しながら、担当者の説明に耳を傾けていた。加治木町から友人3人と来たという女性は「毎年楽しみにしています。掘り出し物がたくさんあって」と、たくさんのお土産を下げた。

午後からは、これも恒例の歌謡ショーやお楽しみ抽選会が開かれ、粗品を手にした来場者は、盛